

授業科目名	幼児と環境	教員名	満行 知花	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択
					小学校教諭	選択
科目番号	FOI106	配当年次	1年後期		幼稚園教諭	必修
					保育士	選択
授業形態	講義				こども音楽療育士	
単位数	1単位				情報処理士	
科目						
施行規則に 定める科目区分						
一般目標	保育内容の領域「環境」の指導に関する、幼児を取り巻く環境や、幼児と環境との関わりについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身につける。					
到達目標	<p>(1) 幼児を取り巻く環境</p> <p>① 幼児を取り巻く環境の諸側面（物的環境、人的環境、社会的環境、安全等）と、幼児の発達におけるそれらの重要性について説明できる。</p> <p>② 幼児と環境との関わり方について、専門的概念（能動性、好奇心、探究心、有能感等）を用いて説明できる。</p> <p>③ 知識基盤社会及び持続可能な開発のための教育（ESD）などの幼児を取り巻く環境の現代的課題について説明できる。</p> <p>(2) 幼児の身近な環境との関わりにおける思考・科学的概念の発達</p> <p>① 乳幼児期の認知的発達の特徴と道筋を説明できる。</p> <p>② 乳幼児の科学的現象、数量・図形との関わり的事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。</p> <p>③ 乳幼児の生物・自然との関わり的事象に対する興味関心、理解の発達を説明できる。</p> <p>(3) 幼児の身近な環境との関わりにおける標識・文字等、情報・施設との関わりでの発達</p> <p>① 乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を説明できる。</p> <p>② 乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について説明できる。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	<p>保育内容の領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目指す領域である。この授業では、幼児が主体的に環境にかかわることによって、感性を豊かにし、人間として生きる力の基礎となる心情、意欲、態度を身に付けていくことができる環境を構成する上で必要な専門的知識・技能を身につける。</p> <p>幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「環境」のねらい及び内容、内容の取扱いについて理解を深めるとともに、他領域・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関係を知る。幼児と環境の関わりと、それらの幼児の育ちにとっての意義を、発達心理学の観点から理解する。幼児をとりまく環境として、自然環境、植物、動物（昆虫を含む）、標識・文字、情報・施設、数量・図形等についての専門的知識を習得し、幼児のそれらに対する興味関心・理解の発達について学びを深める。アクティブラーニングとして、保育活動・遊びの体験・考案、プレゼンテーション、グループディスカッションなどを取り入れる。</p>					
履修条件・注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークの際には、汚れても構わない服装・靴を身につけてください。 ・一部の授業回は天候に左右されるため、授業の順番が前後することがあります。次の回の授業内容は、天気予報を踏まえて、前日にメール等でお知らせいたします。 					
授業計画	<p>第1回 幼児を取り巻く環境、保育内容の領域「環境」の目標と内容</p> <p>幼児をとりまく環境の諸側面（物的環境、人的環境、自然環境等）とそれらが子どもの発達に与える影響についてグループワークを行う。領域「環境」の目標にある好奇心と探究心の発達の過程について学ぶ。好奇心と探究心を育てる保育実践として科学あそびを体験する。（目標(1)①②，目標(2)①）</p> <p>第2回 幼児の自然・生物概念の発達と遊び① 植物との関わりと季節の変化</p> <p>幼児の植物に対する興味関心・理解の発達について学ぶ。季節による自然の変化に気づき、季節を感じる保育実践について学ぶ。大学構内でフィールドワークを行い、身近な植物を用いたあそび（草相撲、草笛など）を体験する。（目標(1)③，目標(2)③）</p> <p>第3回 自然環境の中での遊びと安全対策 自然環境の中で遊ぶ際の安全対策について理解する。構内周辺を散策し、危険箇所や留意点を整理した危険マップを作成することで、予測困難な環境にお</p>					

	<p>けるリスクの把握と対応のあり方について考察する。(目標(1)①②, 目標(2)①)</p> <p>第4回 幼児の自然・生物概念の発達と遊び② 昆虫・小動物との関わり 幼児の昆虫・小動物に対する興味関心・理解の発達について学ぶ。昆虫・小動物に対する擬人的思考の意義と、擬人的思考から科学的思考へ発展させるための支援方法を考察する。(目標(1)②, 目標(2)①③)</p> <p>第5回 伝統行事・文化 地域の伝統行事・文化について学ぶ。各自の体験をもとに地域の行事を整理し、共有する活動を通して、伝統・文化を継承することの意義と保育活動に取り入れる際の留意点について考察する。(目標(1)①, 目標(3)②)</p> <p>第6回 幼児の数量・図形・標識・文字の発達と遊び 標識探し 幼児の数量・図形・標識・文字に対する興味関心・理解の発達について学ぶ。校内外を観察し、身近な標識を見つける活動を通して、幼児が出会う標識等を分析する。(目標(2)①②, 目標(3)①)</p> <p>第7回 幼児の自然・生物概念の発達と遊び③ 水とのかかわり 保育における水を用いた遊びについて理解するとともに、幼児の水に対する興味関心・理解の発達および、水の性質に関する基礎的な知識を学ぶ。水中シャボン玉や巨大シャボン玉づくりを体験し、水の性質と遊びとの関係を踏まえ、遊びの広がりや発展のさせ方について考察する。(目標(2)①②③)</p> <p>第8回 幼児をとりまく環境の現代的課題 情報化への対応と地球環境問題 幼児をとりまく環境の変化について、電子情報との関わりと地球環境問題の面から学ぶ。持続可能な開発のための教育(ESD)について学ぶとともに、環境の変化に関する具体的事例をもとに、人間の生活と自然環境との関係について考察し、保育における環境教育のあり方について検討する。(目標(1)②③, 目標(3)②)</p>
授業外学修時間の確保について	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <p>事前学習: 毎回授業後に次回の授業につながる課題を課す。課題について十分に調べ、また考察すること。</p> <p>事後学習: 体験活動を子どもの育ちと関連付けるレポート課題を毎回課す。授業内容を振り返り、十分な考察を行うこと。</p>
学生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回のレポートの内容30%、プレゼンテーションへの取り組み20%、期末試験の成績50%で評価する。なお、提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・レポートに質問コーナーを設ける。レポートの答案例や質問に対する回答は授業で取り上げる。
テキスト	なし。授業ごとに資料、ワークシートを配布する。
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーバル館 ・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーバル館 ・田宮「体験する 調べる 考える 領域『環境』」萌文書林 ・高山「環境構成の理論と実践」エイゼル研究所 ・高山「保育内容5領域の展開 保育の専門性に基づいて」郁洋舎 ・ハーレン・リプキン「8歳までに経験しておきたい科学」北大路書房 ・大豆生田ら「子どもと自然: あそびが学びとなる子ども主体の保育実践」学研 ・各種の昆虫・植物図鑑や絵本など(図書館、担当教員の研究室にて閲覧可能)
担当者からのメッセージ	<p>・保育内容の領域「環境」の観点から環境を構成し、幼児の発達を適切に支援するためには、動植物や自然現象、社会、数や文字などに対する基本的な知識と、身近な環境を感じ取る豊かな感性、そして子どもの発達に対する理解が必要です。この講義では、学生のみなさんが実際に遊びを体験する機会を豊富に用意します。積極的に参加し、楽しみながら知識を取得すると共に、自分の感性を育てていくように心がけてください。</p>
オフィスアワー	<p>毎週水曜日16:20-17:15</p> <p>ただし随時訪問を受け付けます。できるだけアポイントメントをとってお越しくください。</p>
備考	